2017年10月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第489号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

季刊『子どもと本』――☆★☆
第150号発刊にあたって

文＝子どもと本　編集員　青木祥子

子ども文庫の会とは

わたくしども子ども文庫の会が発行しています季刊『子どもと本』は、7月末で第150号になりました。1980年4月に第1号を創刊してから、3ヶ月に1回、多少遅くなったことはあっても休まず続けてきました。

子ども文庫の会とは、その名の通り、家庭文庫の普及を目的につくられました。創立者の山本まつよは、現在体調をくずして退いていますが、当初の目的について、

> 心身ともに日々成長する子どものために、図書館は、欠くことのできないものです。日本では、まだ、子どもたちが楽しく利用できる公共図書館が少ないので、個人の家庭を開放しての、家庭文庫がぜひほしいものと思います。「子ども文庫の会」は、その家庭文庫が、「ポストの数ほど」多くなることを願い、かつ、子どもと本の問題を明らかにしたいと願って、ごくささやかに仕事を続けています。

と書いています。1960年代後半に、家庭文庫と、単行本『ルーシーのぼうけん』『ルーシーの家出』（キャサリン・ストーア作、山本まつよ訳）の翻訳・出版から活動がはじまりました。

「子どもと本」創刊

それとともに、子どもの本を読んでいくセミナーの開催を続けながら、1980年4月に季刊誌「子どもと本」を発行するにいたりました。創刊号冒頭に、

> わたくしたちが子ども文庫の会に集まって子どもの本を読み始めて、かなりの年月を重ねました。ほとんどが、家庭文庫や地域文庫で子どもとともに本を読んでいる母親たちで、子どもにどんな本がよいのかが、切実な問題でした。……
>
> しかし幸いにも、わたくしどもは非常にすぐれた入門書に出会いました。アメリカのメイ・ヒル・アーバスノット著『子どもと本（Children and Books）1964年版』です。もっとも初歩の基本的な手引き書として申し分ないものでした。この本を読んで初めて、わたくしどもは系統的に子どもの本を読むための具体的な道を発見しました。絵本、わらべうた、詩、民話、神話、叙事詩、ファンタジー、その他の創作といった順序で、すでに評価の定まった本を1さつずつ読むほかないことが、よくわかりました。そして1さつずつ読んできて、「子ども主体」と思っていた世界が、実は「人間同志」の世界であることに気がつきました。子どもと大人の間に、大人が考えるような区別はなく、もし両者の間に差があるとすれば、子どもの感得力は大人のそれを遙かに越えているのに対し、大人は実体験が多いということでしょう。そして本を通して知った生きることの美しさと、真実と、楽しさとを、お隣さんに語りたくなって、この小誌をつくりました。

と掲げています。

季刊『子どもと本』第150号
A5版　48頁　本体価格590円
ISBN　978-4-906075-54-6

記事の中で最も力を入れているのは、“子どもの好きな本のリスト”で、とびきりすぐれた本を紹介しています。家庭文庫をするにあたり、大切なのは、1にも2にも3にも4にも、本を選ぶことだという考えに基づくものです。この姿勢は、37年半経った今も変わらないつもりです。ただ当初のように多くの冊数を紹介できないではいますが……。子ども時代にぜひ出会ってほしい、そして、わたくしたち大人が、新しい本を評価するときの基準になるはずの、心躍る本を選んでいます。その性格上、創刊号から第150号まですべてのバックナンバーを揃えています。

創刊号では、“子どもの好きな本のリスト”の他に、連載の物語、マーシャ・ブラウンの“すぐれた絵本”という文章の翻訳などを載せていますが、以後も、現在も、子どもの本の質、楽しみの質を考える糸口になるような、また、古典やそれに肩を並べるような作品を深く楽しむ手引きになりそうな文章を探して載せています。第150号

には、『みつけたものとさわったもの』という絵本の著者ニコラス・モードビノフがコルデコット賞を受賞した際のスピーチを載せました。1952年の古いものですが、「甘いものではなくて、すぐれたものを」という古びないテーマを具体的に語っています。子どものための絵本というと、ベタベタと甘ったるい絵本が氾濫している状況は、ぜんぜん変わっていませんので。

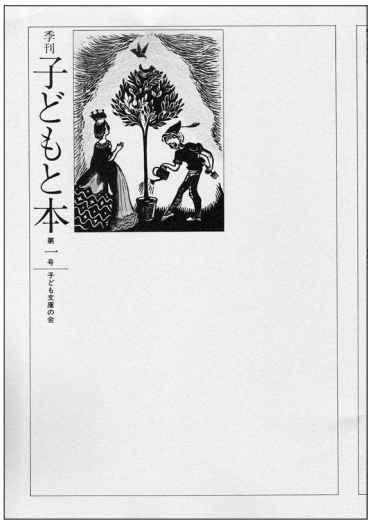
子ども文庫の会のセミナー

そして、創刊号の巻末では、

子どもとともに本を読んでいくにつれて、わたくしどもは、子どもの本の本質が、大人には意外と理解されていないことに気がつきました。むしろ、読んでいないための誤解が堂々とまかり通っていたり、様々の意図や予見を持って読むためのゆがんだ見方が多いことなどが、子どもの本を楽しむ、同時に評価することを妨げているように思います。そこで、子ども文庫の会では、常時、「子どもの本を読むセミナー」を開いて、家庭文庫の質を高め、子どもの本を楽しむ輪を広げる努力をしています。

と語りかけています。このセミナーは今も続けています。

家庭文庫の数は激減した昨今ですが、代わりに、小学校へ本を読みに行っているお母さんが増えています。本をどうやって選ぶか、という問題を抱えている状況は同じなので、今も続けている子どもの本を読むセミナーには、そういうお母さん方の参加も増えています。もちろん、わが子のために、また、自分の楽しみのために、みえる方もいます。現在は、絵本を作家の年代に沿って読んだり、北欧神話や北欧の昔話、モーリス・センダックの絵本についての本、ファンタジーの本などを読んでいますが、どれにも汲めども尽きぬ泉があります。



季刊『子どもと本』創刊号
A5版　32頁　本体価格400円

この中で、現在、J・R・R・トールキンの『ホビットの冒険』を読んでいるセミナーがありまして、その様子を少し『子どもと本』誌上に書いています。

そして、この魅力的な子どもの本の世界の入口として、初級セミナーも続けています。全5回で、絵本、わらべうた、日本の昔話、西洋の昔話、ファンタジーの世界をかいま見るセミナーです。また、幼い子どものための絵本ほど、大人にはわかりにくい面があり、すぐれている絵本とそうでない絵本をくらべて読むと、理屈でなく一目で感得できることが多いので、ご要望があるときは出かけていってくらべ読みのセミナーをしています。ご興味がおありの方は、お問い合わせください。

電話：03-3466-2795
E-mail: kodomobunkonokai@syd.odn.ne.jp

子どもといっしょに、すぐれた子どもの本を読むと、子どもの力と本の力に驚かされることばかりです。1人でも多くの方に、その喜びに触れていただきたいと願っています。

＊

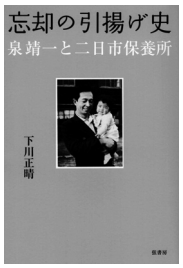
（あおきしょうこ　子どもと本　編集員）

新刊ダイジェスト

※価格は税込（消費税率8%）表示です。

この「新刊ダイジェスト」のバックナンバーを弊社Ｗｅｂサイトにたくさん掲載してます。
機会がございましたらぜひご覧ください。アドレスは以下の通りです。
http://neil.chips.jp/chihosho/digest/index.html
＊検索サイトで「地方・小出版流通センター」とキーワード検索してください。

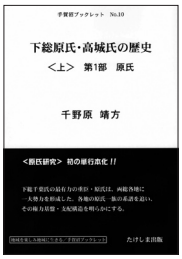
『忘却の引揚げ史　－泉靖一と二日市保養所』●下川正晴著



昭和21年春から翌年秋まで福岡県筑紫郡二日市町（現筑紫野市）に、敗戦後、満州や朝鮮北部などでソ連兵らに性暴行を受けて引揚げてきた女性たちの中絶手術と治療のための保養所が置かれ、その開設に、朝鮮からの引揚者で、後にアンデス文明の発掘者として名を成す文化人類学者、泉精一が奔走した事実は、近代史の中で殆ど語られることがなかった。そこには、「敗者の沈黙」として葬り去られた余りにも残酷でむごたらしい被害の実態がある。泉の福岡での行動も、評伝などで2年間のブランクとされているという。加害と被害の営為を「忘却の穴」から救い出したい。全国の多数の関係者からの生々しく息の詰まる聞き取り、韓国人研究者や解明に奮闘する福岡の市民団体との交流、早くにこれに着目したディレクター上坪隆製作の真迫のテレビドキュメンタリー、内外の文献などから克明に掘り起こす。「行動する良心－泉精一の災害人類学」、韓国人研究者の評価が印象的である。

◆2376円・四六判・333頁・**弦書房**・福岡・2017/8刊・ISBN9784863291553

『下総原氏・高城氏の歴史　上』●千野原靖方著



15世紀前後の関東地方は政治状況が目まぐるしく変わるので正直分かりづらい。鎌倉府崩壊後、鎌倉公方（古河公方）と室町幕府及び関東管領上杉氏との対立が激化、周辺の地域権力をも巻き込み混乱の渦と化す。一族の結束が強かった下総国守護・千葉氏においても公方側と管領側とに分かれての闘いが繰り返された。その際に大いに活躍したのが直臣団である。

なかでも原氏は主家を支える重要な存在となり、戦国期には千葉宗家を凌駕するほどの力を持つこととなる。本書は、その原氏の出自や系譜を多くの史料や記録をもとに丹念に追っていく。千葉常胤の後裔・胤高が原氏の娘婿となり同氏を引き継ぐ。享徳の乱で公方派の胤房が管領派の千葉宗家・胤直と重臣円城寺氏らを破り歴史の表舞台に躍り出る。胤高の頃になると小弓・臼井・弥富を始めいくつかの系統に分かれ、領地は庶流も含め東・西下総や上総の一部など広範囲に及ぶのには目を見張る。高城氏は下巻にて登場。

◆1296円・Ａ５判・139頁・**たけしま出版**・千葉・2017/7刊・ISBN9784925111560

『若槻菊枝　女の一生　－新潟、新宿ノアノアから水俣へ』●奥田みのり著

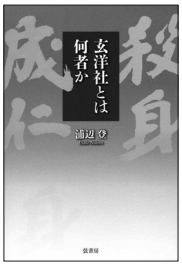
新宿駅東口､今はなきハモニカ横丁にバー「ノアノア」が開店したのは1950年。1970年代には水俣病患者支援のため店内に「苦海浄土基金」と書かれた木箱を置き、カンパを集めた。この店のママが辣腕経営者の若槻菊枝。新潟の小作農家の長女に生まれた菊枝は、小作争議に関わり、組合活動に邁進する父の背中を見て育つ。東京に憧れ上京､戦争を経てバーを開店し、多くの文化人が常連となる。

交際した画家の影響で絵を描き始め、映画監督・土本典昭の勧めで「苦海浄土」を読み、水俣へも出かけた菊枝は石牟礼道子とも知り合い、本格的に支援活動に乗り出すが、60歳で店の経営からは退き、夫の登美雄と共に絵を描き続け、個展も開く。

そんな菊枝の生き様に魅了された著者が５年にわたる取材で彼女の人生を描いた。残念ながら菊枝は７年前に94歳で亡くなったが、彼女の軌跡や功績はしっかりと本書に刻まれており、人間の逞しさと可能性を示してくれる。

◆1620円・Ａ５判・325頁・**熊本日日新聞社**・熊本・2017/7刊・ISBN9784877555580

『玄洋社とは何者か』●浦辺　登著

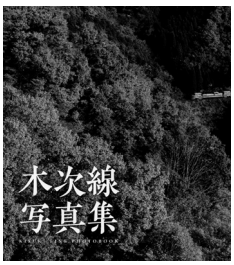


玄洋社は憲則（社訓）に皇室敬載､本国愛重、人民権利固守を掲げ、旧福岡藩士頭山満らによって明治14年に結成された政治団体である。アジア主義を旗印に孫文の中国革命を支援したことでも知られるが、社員による大隈重信爆殺未遂事件、同じく内田良平らが結成した黒龍会の韓国併合推進、Ａ級戦争犯罪人廣田廣毅を擁し戦後ＧＨＱから国家主義、帝国主義の一派として解散命令を受けたことなどから右翼、テロリスト集団とのイメージが定着している。

それに対して著者は、憲則からしても相互扶助団体であり自由民権団体であったと主張する。その論拠として、同社前身の興志塾における女性教師高場乱による国士教育、キリスト教や民間の学ともいうべき陽明学から受けた影響、インド独立運動を戦うビハリ・ボーズや朝鮮開化党金玉均などの亡命者の庇護などを上げる。戦前の政財界に与えた影響の大きさを考えれば、多方面からの研究がもっとなされるべきと思う。

◆2160円・四六判・246頁・**弦書房**・福岡・2017/7刊・ISBN9784863291546

『木次線写真集』●今井出版編



木次線は宍道湖のほとり山陰本線宍道駅と、広島県の備後落合駅とを結ぶ路線です。昨年開業100年を迎えるほどの歴史を持ち、かつては山陰と山陽を結ぶ路線として栄えました。しかし現在は高速バスなどにその役割を譲り地域輸送に徹する日々。自家用車の普及や過疎化で利用者も少なくなりつつあります。そんな木次線の写真集が、今井出版の山陰鉄道シリーズ第６弾として登場です。現在木次線は観光列車「奥出雲おろち号」を走らせるなど観光路線としても知られています。沿線には名水湧き出る出雲坂根駅、美味しい出雲蕎麦が味わえる亀嵩駅など個性的な駅も多くあります。それだけではなく除雪作業に奮闘する保線員や人気のない夜の駅、雪の中を通学する学生の写真も。観光ではなかなかお目にかかれない木次線の「素」の顔も覗くことが出来ます。本書に収められた紅葉の写真は見事なものばかり。この秋にでもふらりと奥出雲に出かけたくなる、そんな美しい写真集です。

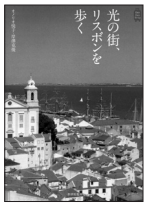
◆2160円･240mm×250mm･107頁･**今井出版**･鳥取・2017/7刊ISBN・9784866110691

売行良好書

期間：2017年8月15日～9月14日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『忘却の引揚げ史』2376円・弦書房　(2)『東京の森のカフェ』1404円・書肆侃侃房　(3)『飯場へ』2808円・洛北出版　(4)『図書の修理とらの巻』1404円・澪標　(5)『光の街、リスボンを歩く』1620円・書肆侃侃房　(6)『トンボのすべて　新装改訂版』3024円・トンボ出版　(7)『そのまま食べる作りおき』1296円・ベターホーム出版局　(8)『北山十八間戸』1998円・気争社　(9)『玄洋社とは何者か』2160円・弦書房　(10)『物語の森へ』3888円・東京子ども図書館　(11)『わたしたちの猫』1512円・ナナロク社　(12)『奇跡のシェフ』1512円・上毛新聞社　(13)『アリの生態と分類』4860円・南方新社　(14)『いのちはモビール』2700円・木星舎　(15)『医者も知りたい面白医学英語事典』7560円・花乱社



［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『古典名作本の雑誌』1728円・本の雑誌社　(2)『東京の森のカフェ』1404円・書肆侃侃房　(3)『昭和プロレスマガジン　４２』1000円・昭和プロレス研究室　(4)『東京かわら版　９月号』500円・東京かわら版　(5)『日常学事始』1404円・本の雑誌社　(6)『計算機言語のまとめノート』270円・暗黒通信団　(7)『津軽学　11号』1620円・企画集団ぷりずむ　(8)『それでもそれでもそれでも』1944円・ナナロク社　(9)『奇跡のシェフ』1512円・上毛新聞社　(10)『ライクアローリングストーン』1620円・フリースタイル

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『図書の修理とらの巻』1404円・澪標　(2)『東京の森のカフェ』1404円・書肆侃侃房　(3)『木村草太の憲法の新手』1296円・沖縄タイムス社　(4)『忘却の引揚げ史』2376円・弦書房　(5)『「プーファ」フリーであなたはよみがえる！』1728円・鉱脈社　(6)『埼玉高校野球グラフ２０１７』1728円・埼玉新聞社　(7)『認知症の私は「記憶より記録」』1620円・沖縄タイムス社　(8)『空手研究』2160円・榕樹書林　(9)『玄洋社とは何者か』2160円・弦書房　(10)『奥武蔵登山詳細図』950円・吉備人出版　(11)『旧鎌倉街道探索の旅２　中道・下道編』2700円・さきたま出版会

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

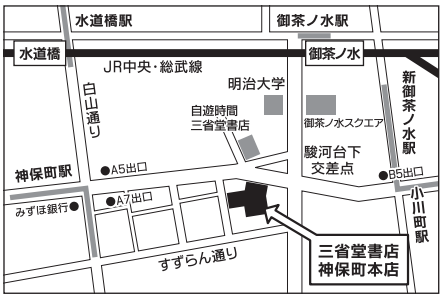
▼本年も秋の読書週間に合わせて10月26日毎日新聞朝刊全国版に地方出版社、小出版社の連合広告『**一冊と出会うよろこび　～地方・小出版の本～**』を掲載予定です。またこれに連動したフェア『**読書週間　地方・小出版社ブックフェア**』を東京の八重洲ブックセンター４階にて開催予定です。広告掲載本を２週間展示販売いたします。因みにこの読書週間は、大正13年に日本図書館協会によって始められたそうです。

▼前号にて詳細を告知いたしました今年の明治大学リバティアカデミー 公開講座 本の街・神保町で考える Part7は、鹿島茂氏の【神田神保町書肆街考―世界遺産的“本の街”誕生から現在まで】（筑摩書房刊）を土台としたものになるそうです。『「本の街」の揺籃』『神保町のヌーヴェル・ヴァーグ』『神田の大火、関東大震災と古書肆街の形成』『神保町のフランス的要素』『小出版社へのオマージュ』等々といった内容となります。詳細は明治大学リバティアカデミーホームページにて。

郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。基本的にメール便は、一冊２１０円でお送り致します。（メール便の到着は、発送してから３～４日かかります。）お急ぎの方、その他ご要望がございます場合はお気軽に下記までお問い合せ下さいませ。
◎なお書籍お買上総計（税抜き価格）が5,000円以上の場合は、送料をサービスさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない
神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM～8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp
本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。